

令和 3 (2021)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	構造が制御された超分岐高分子を基盤とする次世代高分子材料の開発
研究代表者	山子 茂 (京都大学・化学研究所・教授) ※令和 3 (2021)年 7 月末現在
研究期間	令和 3 (2021)年度～令和 7 (2025)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、応募者が独自に開発した有機テルル化合物を使ったリビングラジカル重合を応用することで、高度に構造制御された超分岐ポリマーの合成を行い、末端基間での相互作用を利用した新しい高分子凝集状態に基づく材料創製を行うものである。</p> <hr/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>デンドリマーのように構造が精密規制された多分岐高分子をより簡便に合成することで、従来の鎖状高分子が示す絡み合いをベースとした機能発現とは異なった相分離特性や自己修復機能を有する材料構築を可能とする点は、学術的意義が高い。実用性まで見据えた社会的インパクトの大きい研究成果が期待される。</p>